

## 4. DVDを利用した教師教育用カウンセリング教材の開発と評価

宮本 友弘

### 1. 研究開発の背景

#### (1) 教師教育におけるカウンセリング学習の必要性

ここ数年来、不登校、いじめ、自殺、薬物乱用など、児童・生徒の問題行動は深刻な状況にある。特に、文部科学省の全国調査（「生徒指導上の諸問題の現状について」）によれば、中学校の不登校生徒（30日以上欠席者）は、平成10年度に前年度比20.0%増と急激に増加し、101,675名にのぼっており、平成11年度も104,108名と過去最高を更新している。

こうした状況への対応として、「心の教育」の充実が叫ばれ、その一環として、学校におけるカウンセリング能力の強化・向上が緊急課題になっている。具体的には、スクールカウンセラー等の専門家が学校に配置されるとともに、教員にはカウンセリングに関する態度・知識・技能の修得が要請されている。養成段階では、教育職員養成審議会・第一次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策」（平成9年7月）の「教育相談（カウンセリングを含む）に係る内容の充実」の提言を受けて、教育職員免許法が改正され（平成10年6月）、小学校に係る「生徒指導及び教育相談に関する科目」、及び、中学校・高等学校に係る「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」の最低修得単位数が2単位から4単位に増加し、「教育相談」の内容に「カウンセリング」を含むことが制度化された。また、現職教員については、中央教育審議会答申「新しい時代を拓く心を育てるために一次世代を育てる心を失う危機」（平成10年6月）の「教員はカウンセリングマインドを身に付けよう」の提言を受けて、文部科学省によるカウンセリングに関する研修充実のための予算的措置が図られ、各都道府県教育センター等で多数実施されている。

こうした状況に鑑み、教員養成課程の授業や現職教育研修におけるカウンセリング学習の支援を目指して、マルチメディア教材の開発が企図された（宮本、1998）。

#### (2) カウンセリング学習における映像の利用

カウンセリング学習の方法では、画像メディアによる面接場面の表現・提示が有効である。面接場面の映像は、カウンセラーのトレーニングにおいて伝統的に利用されてきたが、大きく3つの用途を挙げることができる。

第1は、面接の演示での利用である。典型的な教材としては、1966年に米国で制作された“Three Approaches to Psychotherapy”という16ミリフィルムである。この教材では、来談者中心療法のロジャース（Rogers, C.）、ゲシュタルト療法のパールズ（Perls, F.）、論理療法のエリス（Ellis, A.）の著名な3人のセラピストが、同一のクライアントに対してそれぞれの立場から行った面接の映像記録を中心に構成されている。その後、ビデオ化され、日本語版（「グロリアと3人のセラピスト」、日本・精神技術研究所）も制作されている。現在も、我が国のカウンセリングの授業や研修において、もっとも多く使用されている教材のひとつである。

また、マイクロカウンセリングの開発者であるアイビー (Ivey, A.E.) (1985) は、その学習プログラムの基本として、①準備、技法への導入、②実際場面における技法の具体例、③文献の調査、④実習という4つのステップを示しているが、②のステップにおいて、ビデオによるモデル演示を用いている。同様に、カウンセラー養成で定評のあるイーガン (Egan, G.) (1992) は、カウンセリングのトレーニング・プログラムの標準的なステップとして、①特定の技法あるいはカウンセリングの方法の知的理解 (テキストの購読や講義)、②知的理解したことの明確化 (質問やディスカッション)、③技法あるいは方法のモデルの観察、④技法や方法の試行、⑤技法や方法の実習、⑥自分の成果の評価、⑦トレーニングのやり方そのものの反省を示しているが、③のステップにおいて、映画・ビデオを用いている。

第2は、面接過程の分析材料としての利用である。これは第1の方法が面接の提示を強調しているのに対し、提示された面接に対する観察活動をより重視する。すなわち、面接場面の映像を材料に、面接全体の流れ、特定の技法、カウンセラーの行動、クライアントの行動、及び、両者のインタラクションなどについて、観察・分析・検討する。テープ分析とも呼ばれている。

Engenら (1994) は、この方法にインタラクティブ・ビデオディスクの技術を取り入れた学習教材を開発した。そこでは、レーザーディスクに記録された面接場面に対して、ハイパーカード上で観察場面を制御し、マイクロカウンセリング技法の同定の訓練を行えるようになっていく。

一方、研究文脈においても、面接場面の映像提示が、アナログ (analogue) 研究パラダイムで多用されている。ここでいうアナログとは、本物のカウンセリングの代用物という意味であり、映像提示、音声提示、文字提示 (逐語記録) などや、ロールプレイの実行のことである。特に前者を代理参加 (vicarious participation)、後者を擬似カウンセリング (quasi-counseling) と呼ぶことがある (Hardin & Yanico, 1981)。Munley (1974) によれば、初期の研究では、こうしたアナログの手法の現実的な妥当性 (現実のカウンセリングに近似できるか) が問題であったが、そうした関心は次第に薄れ、カウンセラー及びクライアント一般の行動や特性の観察・評価を行う統制可能な材料として利用されている。また、代理参加型の場合では、面接場面の提示モード (映像、音声、逐語記録など) が面接中のカウンセラー及びクライアントの評価に及ぼす影響が検討されたりもしている (Hardin & Yanico, 1981; Johnsonら, 1996 など)。

第3は、面接のシミュレーション・トレーニングでの利用である。これは、映像で現実を起こるであろうと予想される出来事の雛型を提示し、状況判断や方法決定の訓練を行う。いわば、第2アプローチにおいて学習者の反応や活動をより発展させた方法ともいえ、Engenら (1994) の学習教材もシミュレーションの要素を取り入れている。

Eisenberg (1971 August) は、カウンセリングのビデオ・シミュレーションとして2つの方法を示している。一つは、クライアントを映像で提示して、学習者が実際に応答などを行う場合である。彼は、この訓練過程に、言語的条件づけ (事前セッションで、正しい応答ができた場合、誉める) とモデリング (事前セッションで、カウンセラーがクライアントに正しい応答しているビデオの提示) を系統的に組込んで、学習効果を比較し、モデリングの方

が有効であることを実証した (Eisenberg&Delaney, 1970)。他方は、映像で提示した場面を視聴して、それを素材に討論を行うことである。前者はロールプレイ的な手法であり、後者は事例研究的な手法ということもできる。

以上の3つの方法は、全く独立ではなく、面接場面の映像の観察→分析→検討・実行という流れで系統だてることができ、実際の学習では、そのように実践されている。

これらの学習法は、中澤ら (1988) が「モデリングと画像メディア」に関して提出した学習の分類枠組みにおいても定義づけられる。彼らは、情報の提示様式 (直接的／代理的) と学習者の反応様式 (直接的／代理的) の組み合わせから4タイプの学習を示した。ただし、情報の提示様式、学習者の反応様式の両次元においても、直接的と代理的に二分化されるものではなく、中間的な場合もあるとしている。これによれば、第1の方法は、ともに代理的であるタイプで、「フィルムモデルによる学習」が事例として挙げられていたが、まさにそれである。ちなみに、アイビー (Ivey, A.E.) のマイクロカウンセリングの学習方法は、バンデューラ (Bandura, A.) の提唱する社会的学習の方法、すなわち、モデリングに示唆を得ている。第2の方法も、提示様式が代理的、反応様式が代理的である。ただし、第1の方法とは提示される事象に対する意味づけが異なる。また、観察学習の下位過程 (中澤ら, 1988) のうち、特に、注意 (示範された諸行動を探索・知覚する過程)、保持 (示範された事象を保持する過程) において、学習者の目的志向的な活動が強調される。第3の方法は、提示様式が代理的、反応様式が直接的な場合である。ただし、面接場面が提示される場合は、カウンセラーのクライアントへの反応自体は代理的であるが、学習者がそうしたカウンセラーの行動を分析・検討する段階では、「認知的」に直接的な反応といえる。そういう意味で、中間的な場合である。

ともあれ、カウンセラーのトレーニングにおける映像の有用性を踏まえ、本教材では、面接場面の映像を中心素材として構成することとした。実際、教員養成課程の授業や現職教員研修においても、前記した「グロリアと3人のセラピスト」が利用されることが多く、面接場面を記録した映像教材・資料は不足している。

ここで留意すべきことは、カウンセリングの学習における教授者の役割である。カウンセリングの訓練一般においては、指導者によるスーパービジョンという方法がとられる。上記した学習の場合だと、面接過程を客観的に理解させたり、どのようにすればいいかという技術的な問題への助言指導を行うことが多い。したがって、教材の実用性にとっては、教授者の「使い勝手の易さ」を十分考慮する必要がある。Fitzferald (1995) は、教師の教室観察技能のトレーニング用に作成したインタラクティブ・ビデオディスクに、教授ツールと学習ツールの2つ利用法を示したが、本教材は前者に力点を置くことになる。

### (3) 教授ツールとしてのDVD

本教材の使用媒体の選択にあたっては、①基本的な素材として面接場面の映像を使用すること、②教授者のさまざまな指導目的に対応して、できるだけ多くの内容を記録できること、また、それらの多様な提示 (すなわち、対象の観察事態) を実現する機能をもつこと、③通常、教師教育におけるカウンセリングの授業・研修が集団学習であるに対応して、大画面で一斉提示に耐えうる画質・音質をもつことが、考慮された。

現状において、こうした条件にもっとも適合するメディアはDVD（DVD-Video）である。同様な発想のもと開発した教師教育用のDVD教材（宮本・近藤，1998）では、高品質の映像で、多様かつインタラクティブな授業場面の提示を実現している。

なお、DVDの特性や教材メディアとしての有効性については、本報告書の第3章に詳述されている。

## 2. 開発のプロセス

### (1) 設計コンセプト

本教材の開発にあたっては、専門的なカウンセラー養成ではなく、あくまでも教師教育の中でのカウンセリングの学習ということを配慮し、「折衷主義」（國分，1997）の立場をとる。すなわち、「特定の理論や方法に固執せず、児童・生徒の成長に役立つことなら何でも利用した方がよい」（P.38）という立場である。現実の多様な児童・生徒に対応していく上で、特定の理論や方法に固執するのは危険であり、実用的でない。

基本的な開発目標は、DVDを利用して、面接場面の映像を中心とした多様な学習素材の提供、及び、多様な提示法を実現し、授業担当者、現職教員研修者の指導支援を行うことである。

こうした目標のもと、具体的には、次のような内容と機能の実現を試みた。

①面接場面の映像 カウンセリングは密室性が強く、また、学生や現職教員が観察する機会がほとんどないという実用的な観点からも、面接場面の映像を提供することには意義がある。ただし、特定の技法や理論の例示になることは避け、面接の具体的な様相を知るための一例、すなわち、さまざまな検討を行う上での素材となるような内容にする。また、教育現場の実態を反映させるために、現在、カウンセリングを担っているのが、学校内の教師、スクールカウンセラー（臨床心理士）、学校外の教育センター等の専門機関相談員であることを踏まえ、これに対応した3つの事例を選定する。

②面接過程の多角的な提示 面接過程の観察・分析では、少なくとも相談者、来談者、両者の相互作用の3点に注目することが重要である。そうした情報を効果的に提示するために、ひとつの面接場面につき、相談者、来談者、及び、全体に焦点を当てた3種類の映像を作成し、DVDのマルチ映像機能を適用する。

③面接過程の観察の補助情報 面接過程の観察を補助する情報として、時間経過を明示する。

④面接過程の理解の補助情報 相談者がどのような意図で面接を進めているかの理解を補助するために、面接中のポイントなる箇所で、相談者の意図を明示できるようにする。これは、字幕で行い、DVDの字幕機能を適用する。

⑤面接過程の分析・検討の支援材料 面接過程の分析・検討を支援する情報として、さまざまな立場の専門家による当該面接に対する意見を用意する。その提示にあたっては、2つの方法を試みる。ひとつは、面接場面の視聴中に実況解説的に提示する方法である。これには、DVDのマルチ音声機能を適用する。この方法は、前記した観察学習の下位過程の、特に、注意過程、保持過程に対し作用し、学習者に及ぼす観察学習効果、静止効果、反応促進効果

が偏向することを防ぐことも期待できる。他の方法としては、面接の視聴後に、専門家の総評的なコメントを自由に選択・提示できるようにする。

## (2) 開発チームの組織

心理学のうちカウンセリングを扱う領域（臨床心理学等）にはさまざまな学派があり、カウンセリングに関する考え方や技法、さらには、教員に要請される知識や技能、職務についての見解には相違がみられる。特に教員とスクールカウンセラー等の専門家との役割分担については、専門家の資格問題も絡んで感情的な対立さえ引き起こしている。そこで、学術的なコンセンサスを得るために複数の学派からなる臨床心理学の専門家6名、さらに、教育心理学の専門家6名、教育相談担当歴10年以上の現職教員6名、専門カウンセラー3名を組み入れた開発チームを組織した。この開発チームは、教材の企画とともに、素材と教材に対して形成的評価や検討を行うフォーカス・グループとしても機能する。

## (3) 素材の開発

①面接場面映像の開発 現在、学校におけるカウンセリングは、学内では教師、スクールカウンセラー等の専門家、及び、学外の専門機関相談員が行っていることを踏まえ、来談者を中学生とし、3種類のカウンセリング場면을収録した（表1）。ただし、プライバシーの保護のため、実際の相談事例を参考にロールプレイを行うこととし、相談者役は各収録先の教師、スクールカウンセラー（臨床心理士）、相談員、来談者役はプロの俳優が演じた。また、カウンセリング場面はすべて、相談者、来談者、全体の3つのアングルから収録された（図1）。

表1 3種類の面接場面

相 談 者	収 録 先	相談内容	時 間
教 師	埼玉県 伊奈町立伊奈中学校	いじめ	約15分
スクールカウンセラー (臨床心理士)	東京都 東大和私立第一中学校	進 路	約27分
専門機関相談員	埼玉県立 南教育センター	不登校	約30分

図1 面接場面のマルチアングル映像の例（教師による事例）



②専門家の実況解説とコメントの開発 各カウンセリング場面に沿って、立場の異なる専門家（各事例3名ずつ）の実況解説を収録した。また、それとは別に、複数の専門家の各事例に対するコメント（3分程度）を収録した（教師の事例3名、スクールカウンセラーの事例5名、専門機関相談員の事例4名）（表2）。

表2 専門家の実況解説と事後コメント

相 談 者	実況解説	事後コメント（3分程度）
教 師	カウンセリング心理学者 臨床心理学者 現職教員	実況解説者3名
スクールカウンセラー （臨床心理士）	臨床心理学者 教育心理学者 学校心理学者	実況解説者3名 教育臨床心理学者 現職教員
専門機関相談員	カウンセリング心理学者 教育心理学者 臨床心理学者	実況解説者3名 現職教員

③面接過程の観察・理解の補助情報の開発 相談者役が自分の行動について、特に強調したいポイントや意図について、面接過程に沿って適宜挙げてもらい、それらを字幕として作成した。また、面接場面映像には、面接の時間経過を示すタイマーを表示した。

#### (4) パイロット版DVD教材の開発

DVDの諸機能（マルチアングル機能、マルチ音声）を面接の観察への応用、映像や音声の質、教材のデザイン、構造を検討するために、教師の面接事例映像、及び、それに対する専門家の実況解説と事後コメントだけを利用したパイロット版の教材を開発した（図2～図5）。

図2 パイロット版の構図

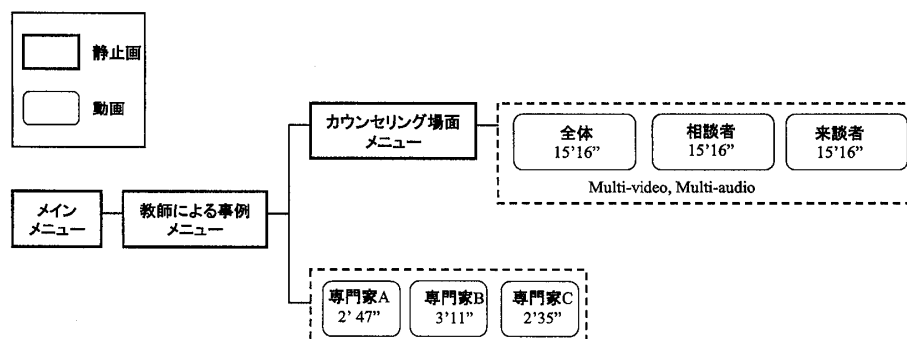


図3 メインメニュー（パイロット版）



図4 「教師による事例」のメニュー（パイロット版）

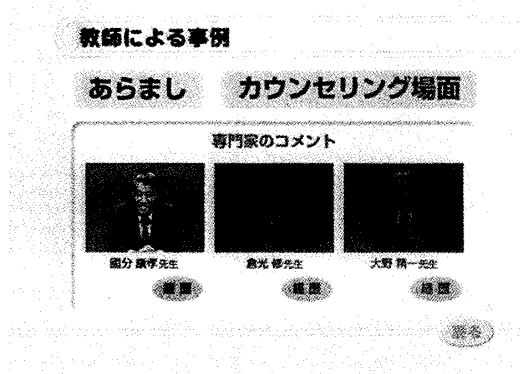
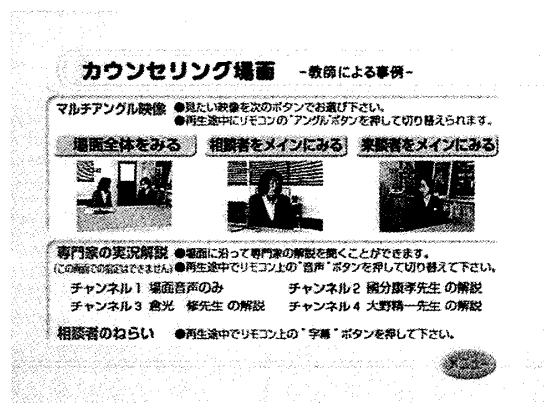


図5 「カウンセリング場面」のメニュー（パイロット版）



## (5) 形成的評価

上記したように、各素材やパイロット版については、適宜、フォーカス・グループによって検討されたが、加えて、次の2つの評価調査を行った。

①面接場面映像の評価 面接場面のうち、教師の事例については、他の2名の相談者役と違い、相談役の教師がロールプレイに不慣れであったため、現職教員38名を対象に、その本物らしさ（リアリティ）について視聴評価を実施した。面接場面の全体映像を視聴後、この面接が「リアリティがありましたか」（リアリティ）について評定させた結果（「1. とてもそう思う」、「2. ややそう思う」、「3. あまりそう思わない」、「4. まったくそう思わない」の4段階評定）、平均1.88（SD=.64）であり、重大な問題はないと判断した。

②パイロット版DVD教材の評価 パイロット版教材（教師の事例のみ収録）について、現職教員14名を対象に評価調査を実施した。調査はカウンセリングの校内研修を通じて行われた。研修担当者が本教材のあらゆるコンテンツと機能を提示した後、3つのアングルからの映像、専門家の実況解説、専門家の事後コメント、マルチアングル機能、マルチ音声機能の5項目について、学習上の有用性（「学習に役立つと思いますか」）について評定させた（「1. とてもそう思う」、「2. ややそう思う」、「3. あまりそう思わない」、「4. まったく

そう思わない」の4段階評定)。その結果、すべての項目で10名以上が「1. とても思う」、あるいは、「2. やや思う」と回答した。このことから、本教材で採用する基本的な内容構成や機能がほぼ妥当である判断した。

### 3. 最終プロダクト

パイロット版の検討結果を踏まえ、最終的なDVD教材（DVD-Video、片面2層）を図6のように構成した。大きく導入部（「はじめに」）、各事例部、終了部（「終了」）、また、各事例部は「あらまし」、「カウンセリング場面」、「専門家のコメント」から構成され、すべてメインメニューから選択できるようになっている（図7）。「はじめに」には本教材のねらい、利用上の注意（カウンセリング場面がロールプレイであること、模範例ではないこと）等を、「終了」には本教材の出演者とスタッフ等をテキストで記した。

以下、事例部についてDVDの機能を中心に概要を述べる。

#### (1) 「あらまし」

カウンセリング場面の状況設定をテキストで記した。各事例とも2画面からなる（図8）

#### (2) 「カウンセリング場面」

カウンセリング場面の3つのアングルからの映像をそのまま記録して、マルチアングル機能を適用した。サブメニュー画面（図9）から任意の映像を選択して再生でき、再生途中で3つのアングルを自由に選択することができる。なお、各映像には時間経過が分かるようにタイマーを表示した。

また、場面音声のみ、及び、専門家3名の実況解説からなる計4つの音声チャンネルを設定し、マルチ音声機能を適用した。カウンセリング場面に沿って、さまざまな立場の専門家による実況解説を自由に選択して聞くことができる。

さらに、カウンセリング場面に沿って相談者役のねらいについての字幕を作成し、字幕機能を適用した。場面再生中に字幕の表示の有無を自由に選択することができる。

このように、各事例につき、3（3アングル映像）×4（場面音声のみ、3種類の実況解説）×2（字幕有無）の計24の視聴パターンが実現され、カウンセリング場面を多角的かつインタラクティブに提示・観察できるようにした。

#### (3) 「専門家のコメント」

サブメニュー画面から、専門家のコメントを自由に選択して視聴することができる（図10）。



図6 本教材の全体構図

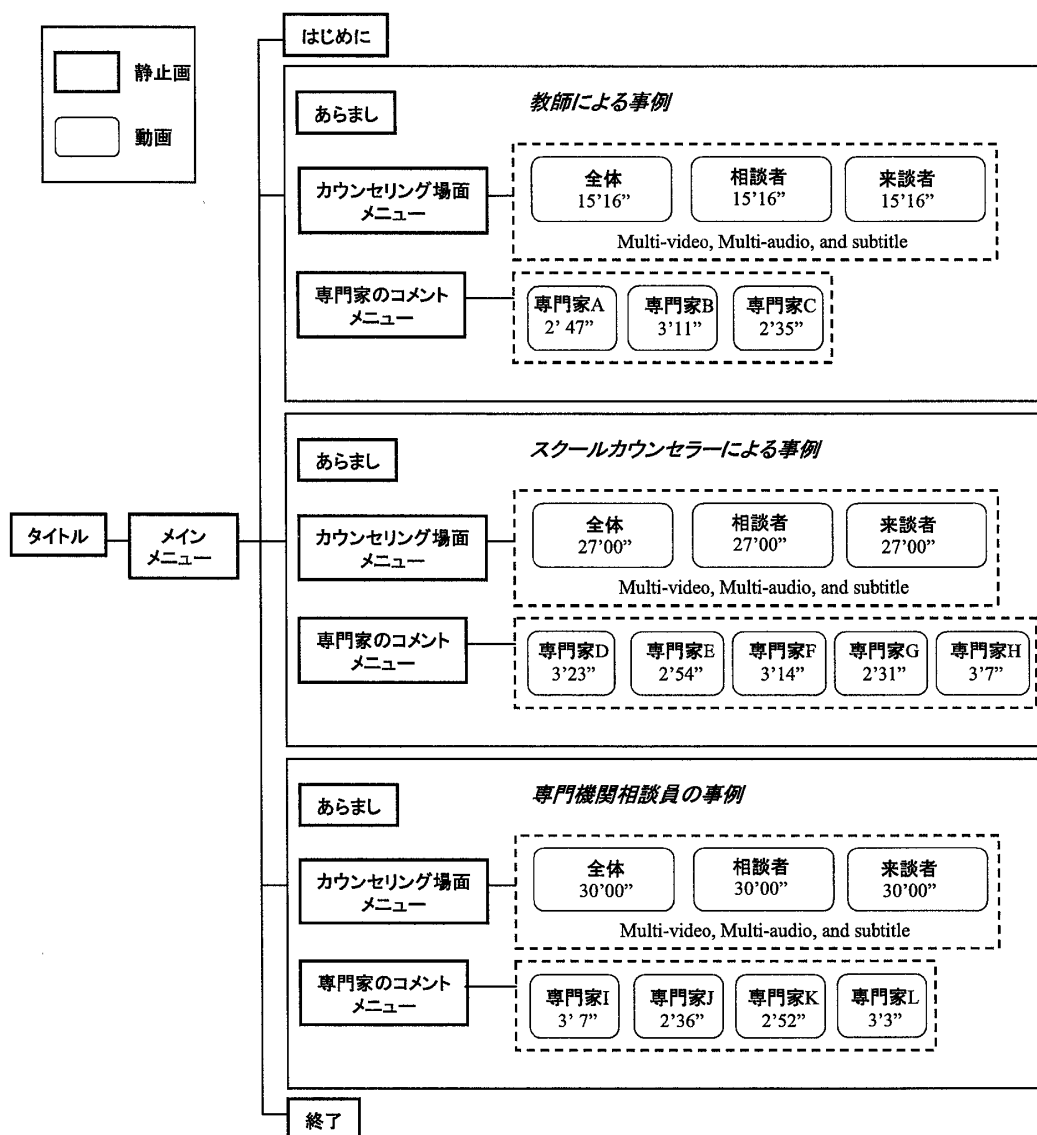


図7 メインメニュー



図8 「あらし」の例（教師による事例）

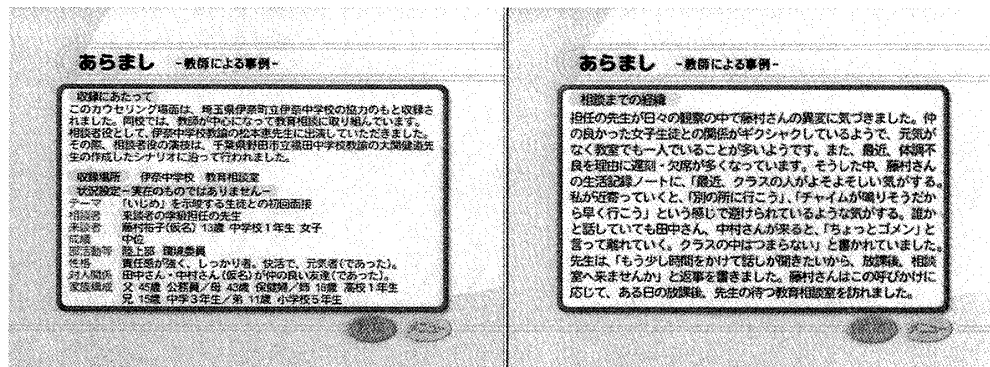


図9 「カウンセリング場面」の  
メニューの例（教師による事例）

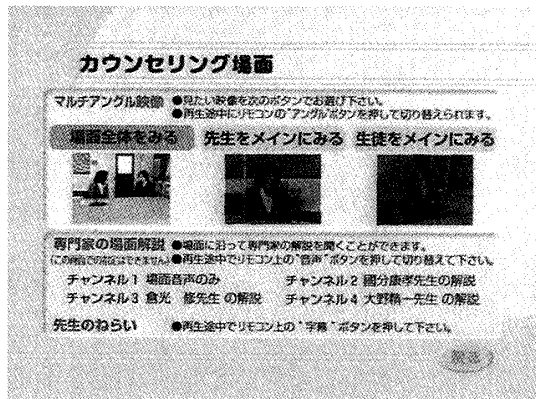
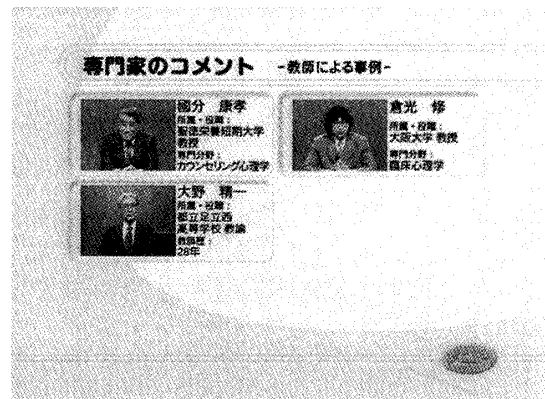


図10 「専門家のコメント」の  
メニューの例（教師による事例）



#### 4. 総括的評価

本教材の総括的評価として、教授者（大学の授業担当者、教育センター等の現職教員研修担当者）を対象に郵送による質問紙調査を実施した。以下、その概要を述べる。

##### (1) 方法

**調査対象** 授業担当者25名、研修担当者28名。

**実施時期** 1999年12月～2000年2月。

**質問紙** 質問項目は、①主要コンテンツである面接場面の利用価値の評価3項目（学習に「利用できる」、「どちらかといえば利用できる」、「どちらかといえば利用できない」、「利用できない」の4段階評定）、②内容の構成と機能の有用性の評価8項目（学習に「役立つ」、「どちらかといえば役立つ」、「どちらかといえば役立たない」、「役立たない」の4段階評定）、③教材の良い点、及び、改善点の自由記述（それぞれ5つ以内）、④実際の授業・研修での利用予定の有無（「すでに利用した」、「利用したいと思う」、「利用したいと思わない」）、及び、「すでに利用した」、「利用したいと思う」とした場合の主な利用法についての自由記述、⑤学習者の個別利用奨励の有無（「はい」、「いいえ」）からなる。

**手続き** 本教材を教員養成系大学や教育センター等の専門機関、及び、個人希望者に配布し（1999年11月末の時点で計419件）、後日、質問紙を郵送して回答を依頼した。全体で128

名からの回答が得られた。そのうち、大学の授業担当者は48名、教育センター等の現職教員研修担当者は50名であったが、実際に本教材を視聴できた授業担当者25名、研修担当者28名からのデータを分析対象とした（残りは再生環境がないため視聴できず）。

## (2) 結果と考察

- ① 面接場面の評価 全回答者53名のうち、教師、専門機関相談員の事例に対して50名（94.3%）が、スクールカウンセラーの事例に対しては51名（96.2%）が「利用できる」、「どちらかといえば利用できる」と回答した。より積極的な肯定的評価の分布をみるために、「利用できる」とした回答者の割合を、全体、及び、授業と研修の担当者別に示したのが表3である。

全体の回答について、「利用できる」以外を併合して $\chi^2$ 検定を行った結果、いずれの面接場面に対しても「利用できる」とした回答者の人数が有意に多い（教師： $\chi^2(1) = 13.75$ , スクールカウンセラー： $\chi^2(1) = 9.98$ , 専門機関相談員： $\chi^2(1) = 11.79$ , いずれも $p < .01$ ）。このことから、3種類の面接場面は学習において利用価値のあるコンテンツであるといえる。

一方、担当者別の回答を比較すると、一貫して授業担当者の割合が研修担当者よりもやや低いが、統計的には有意でなかった。授業担当者25名も、いずれの事例に対して6割以上が「利用できる」としていることから、大学の授業にも有用であるといえる。

表3 各面接場面を「利用できる」とした回答者の割合（%）

	全体	授業担当者	研修担当者
N	52	25	28
教 師	75.5	64.0	85.7
スクールカウンセラー	71.7	64.0	78.6
専門機関相談員	73.6	64.0	82.1

- ② 内容の構成と機能の評価 全体、及び、担当者別において、すべての項目で8割以上が少なくとも「役立つ」、「どちらかといえば役立つ」と回答した。より積極的な肯定的評価の分布をみるために、「役立つ」とした回答者の割合を全体、及び、担当者別に集計したものであるが表4である。

全体の回答について、「役立つ」以外を併合して $\chi^2$ 検定を行った結果、「役立つ」とした回答者の人数が有意に多かったのは、順に「3方向からの面接場面映像」（ $\chi^2(1) = 15.86$ ,  $p < .01$ ）、「専門家の事後コメント」（ $\chi^2(1) = 9.98$ ,  $p < .01$ ）、「専門家の実況解説」（ $\chi^2(1) = 6.81$ ,  $p < .01$ ）、「「相談者のねらい」の字幕」（ $\chi^2(1) = 6.81$ ,  $p < .01$ ）、「3方向からの面接場面映像の切替機能（マルチアングル機能）」（ $\chi^2(1) = 5.54$ ,  $p < .05$ ）の5項目であった。この結果から、特に、面接の全体、相談者、来談者の3つの焦点を当てた映像の構成とそれを活用するDVDのマルチアングル機能が有効であるといえる。また、面接過程の観察の補助情報とした「面接時間経過の表示」は50.9%と半数程度であり、学習上、それほど有効な情報ではないようである。

一方、担当者別の回答をみると、それぞれの分布の傾向は全体とほぼ同様であるが、両者を比較すると研修担当者の方が一貫して「役立つ」とした回答者の割合が高い。研修担当者はいずれの項目も6割以上が「役立つ」としているが、授業担当者は「3方向からの面接場面映像」と「3方向からの面接場面映像の切替機能（マルチアングル機能）」を除き、「役立つ」とした回答者が6割をきっており、「面接時間経過の表示」、「専門家の実況解説」にいたっては半数を下回っている。「役立つ」以外を併合して2×2の $\chi^2$ 検定を行ったところ、人数の偏りが有意であったのは、「専門家の実況解説」（ $\chi^2(1)=12.48, p<.01$ ）、「専門家の事後コメント」（ $\chi^2(1)=5.74, p<.05$ ）の2項目であった。残差分析の結果、両項目とも、授業担当者の方が有意に少ない。

こうした有用性に関する評価の違いは、大学の授業担当者と現職教員研修担当者の当該分野における専門性の違いに起因するものと考えられる。大学の授業担当者の場合、多くはカウンセリングの研究者でもあり、独自の理論や考え方に基づいて授業を行う。そのため、面接の観察用の素材自体とその提示にかかわるマルチアングル機能があればよく、その他の付加的な情報、特に、他の専門家による実況解説やコメントを利用することなく、面接映像のみを利用した授業を展開するものと考えられる。

表4 各構成要素・機能を「役立つ」とした回答者の割合（％）

N	全体 52	授業担当者 25	研修担当者 28
(構成要素)			
3方向からの面接場面映像	77.4	72.0	82.1
「相談者のねらい」の字幕	67.9	56.0	78.6
面接時間経過の表示	50.9	40.0	60.7
専門家の実況解説	67.9	44.0	89.3
専門家の事後コメント	71.7	56.0	85.7
(機能)			
3方向からの面接場面映像の切替機能 (マルチ映像機能)	66.0	60.0	71.4
「相談者のねらい」の字幕の表示の切替機能 (字幕機能)	58.5	52.0	64.3
専門家の実況解説音声の切替機能 (マルチ音声機能)	56.6	52.0	60.7

- ③ 教材の「良い点」、及び、「改善点」に関する自由記述の質的分析 教材の「良い点」については計100件の記述回答が得られた。それらを内容ごとに分類・整理したものが表5である。回答は多岐にわたっているが、全体的に上記の有用性の評価結果とほぼ符合している。特に多いものとしては、「専門家の実況解説・コメント」（24件）があるが、そのうち17件が研修担当者ある。次いで、「面接場面の出来栄え」（13件）、マルチアングル機能（9件）、「面接過程の提示・理解」（8件）で、これらは、「DVDの機能を利用した面接の多角的な観察のための素材の提供」という本教材の基本的なコンセプトが評価されたといえる。

「良い点」と同様に、「改善点」の記述回答72件を分類・整理したものが表6である。もっとも多い「面接のバリエーションを増やすべき」（15件）のように、本教材自体の「改善」と

いうよりは、新たなコンテンツ、教材を要望する回答が多くみられた。なお、「DVDが普及してない」が6件挙げられているが、今回の調査でも、回答を返送した授業担当者、研修担当者の約半数が、再生環境がないため視聴できなかった。この点については、現在、DVDプレーヤーは急速な普及を見せており、今後は是正されるものと予想される。ちなみに、2000年7月末時点で、DVDビデオの専用プレーヤーの累積出荷台数は112万台にのぼっている（ユニ通信社「ビデオ通信」第2439号）。

表5 本教材の「良い点」についての各カテゴリーの件数

N	全体 52	授業担当者 25	研修担当者 28
(内容構成について)			
専門家の実況解説・コメント	24	7	17
面接場面の出来栄え	13	10	3
相談者のねらいの字幕	6	3	3
3種類の面接	4	4	0
その他	2	2	0
(DVDの機能・特性について)			
マルチアングル機能	9	3	6
ランダムアクセス機能	7	3	4
字幕機能	3	1	2
音声・映像の品質	3	0	3
マルチ音声機能	2	1	1
操作の容易性	2	1	1
その他	6	3	3
(教材としての用途・効能について)			
面接過程の提示・理解	8	2	6
多様な活用可能性	7	1	6
初心者向け	4	3	1
計	100	44	56

表6 本教材の「改善点」についての各カテゴリーの件数

N	全体 52	授業担当者 25	研修担当者 28
面接のバリエーションを増やすべき	15	8	7
DVDが普及していない	6	3	3
各面接場面の時間をもっとコンパクトにすべき	5	2	3
音声が聞き取りにくい	5	2	3
内容の選択肢が多すぎる	5	1	4
その他（4件以下）	36	17	19
計	72	33	39

- ④ 本教材の利用について 表7は本教材の利用についての結果を示したものである。授業担当者では、6名が「すでに利用した」、10名が「利用したいと思う」と回答している。また、研修担当者は「すでに利用した」者はいないが、25名が「利用したいと思う」と回答している。このように、相当数の者が授業や研修での利用を考えており、本教材の実用化の可能性が示唆された。

「すでに利用した」、「利用したいと思う」とした回答者に、具体的な利用方法について記述を求めたところ、授業担当者16名、研修担当者25名からの回答が得られた。参考資料として、全回答を本稿末に掲載する（資料1参照）。資料1をみると、学習者のレベル、教授デザインともに多岐にわたっているが、これは、本教材の多目的な利用を前提とした素材の提供という開発目標に適っているといえる。

学習者に「本教材を個別に利用することを勧めるか」の問いに対しては、授業担当者、研修担当者ともに、「はい」と「いいえ」の回答者数がほぼ同じ程度ある（表8）。本教材は、指導者が現前することを前提として学習での用途に力点を置いて開発されたが、個別学習用としての利用可能性もあり得ることを示す結果である。ただし、そのためには、学習者がカウンセリングに関する基礎的な学習を済ましていること、あるいは、チュートリアルなど、学習の進め方に関する情報や機能の付加が必須と思われる。

表7 本教材の利用について（人数）

	すでに 利用した	利用した いと思う	利用したい と思わない	無回答	計
授業担当者	6	10	1	8	25
研修担当者	0	25	1	2	28
全 体	6	35	2	10	53

表8 学習者の個別利用の勧め（人数）

	はい	いいえ	無回答	計
授業担当者	8	9	8	25
研修担当者	15	10	3	28
全 体	23	19	11	53

## 5. まとめ

以上の評価結果から、本教材の目標はほぼ達成できたといえ、実用化への可能性は示された。モデルや正解を想定しにくいカウンセリングの学習では、本教材のような多目的な用途を前提として素材提供型の教材がひとつの有効なアプローチであるといえ、その実現にDVDは適切なメディアのひとつと考えられる。

なお、本調査以降も、授業や研修での利用を目的に、多くの配布希望が寄せられている。また、本調査時に視聴できなかった者や回答を返送しなかった者の中にも、その後、視聴環境の整備に伴い、授業や研修で利用している例がいくつか確認されている。これらについては、あらためて追跡調査を行って、実態を正確に把握していく予定である。

## 【引用文献】

1. イーガン, G. (福井康之・飯田栄訳) (1992) 熟練カウンセラーをめざすカウンセリング・ワークブック. 創元社、大阪
2. Engen, H.B., Finken, L.J., Luschei, N.S., and Kenney, D. (1994) Counseling simulation: an interactive videodisc approach. *Computers in Human Services*, 11(3-4): 283-298
3. Eisenberg, S. (1971 August) Implication of video simulation of counseling. *Educational Technology*, 11(8): 50-52
4. Eisenberg, S. and Delaney, D.J. (1970) Using video simulation of counseling for training counselors. *Journal of Counseling Psychology*, 17(1): 15-19
5. Fitzgerald, G.E. (1995) The effects of an interactive videodisc training program in classroom observation skills used as a teaching tool and as a learning tool. *Computer in Human Behavior*, 11(3-4): 467-479
6. アイビー, A.E. (福原真知子・梶山喜代子・國分久子・楡木満生訳編) (1985) マイクロカウンセリング. 川島書店、東京
7. Hardin, S.I. and Yanico, B.J. (1981) A comparison of modes of presentation in vicarious participation counseling analogues. *Journal of Counseling Psychology*, 28(6): 540-543
8. Johnson, M.E., Pierce, C.A., Baldwin, K., Harris, A., and Brondmo, A.K. (1996) Presentation format in analogue studies: Effects on participant's evaluations. *The Journal of Psychology*, 130(3): 341-349
9. 國分康孝 (1997) 学級担任のための育てるカウンセリング入門. 図書文化社、東京
10. 宮本友弘 (1998) 「心の教育」を支援する教師教育教材の開発. *視聴覚教育*, 52(6): 36-37

11. 宮本友弘・近藤智嗣（1998）DVDメディアの特性を生かした映像教材の開発．教材学会年報、第9巻：175-177
12. Munley, P.H.(1974) A review of counseling analogue research methods. Journal of Counseling Psychology, 21(4): 320-330
13. 中澤潤・大野木裕明・伊藤秀子・坂野雄二・鎌原雅彦（1988）社会的学習理論から社会的認知理論へーBandura理論の新展開をめぐる最近の動向ー．心理学評論、31(2): 229-251

#### 資料1 具体的な利用方法

（注）カッコ内の数字は、回答者の区別のために便宜的に付記したものである

---

#### 実際の利用者

（授業担当者6名）

---

- (1) カウンセラー養成コースの4年次生に、実習の「スクールカウンセリング」で事前指導として用いた。大学院修士過程で教育相談特論の講義の中で利用した。公開講座「ボランティアカウンセリング」の講義の中で「カウンセリングの実際」というところで利用した。
- (2) 学部学生対象には、いじめ、不登校の事例の1つとして、カウンセリングの具体例（モデル）として。院生・現職者にはこの目的のほかに自分の相談をふりかえるために。
- (3) 具体的なカウンセリングマインドの必要性をとらえる
- (4) 大学院の授業に利用した。見たあとの感想では大変勉強になり、特に専門家の解説が一人ではなく、何人か意見が食い違ったりしているところが面白い。（どこまで打ち合わせてあったのかなという声もあった。）学部生の授業でも使いたい、まだ再生設備がないので一般教室には無いので残念である。
- (5) 学校教育臨床心理学の授業で視聴。われわれも真似て三つのカメラで小学生（小5年）対象にRole-Playingをやってみた。（学生が担任の教師後）
- (6) 「教師による実践事例」を利用しました。話だけでなく映像でみせることは、映像効果が上がります。不登校、いじめ、暴力行為、薬物などの事例と対応のもの（文部省作成）が欲しい

---

#### 利用予定者

（授業担当者8名）

---

- (1) 大学院レベル。既にカウンセリングの理論や技本について基本的なところを学んだ学生が試行カウンセリングなどをする前の段階として見せ、感想などを聞き、討議するような形を考えている。
- (2) 学生：入門。用途：カウンセリングの雰囲気伝えるため。効果：カウンセリングの実感がわくと予想できる
- (3) 相談機関での教育研修
- (4) 特に心理学専攻学生に、カウンセリングの実際を知ってもらう上で役立つのではないかと



期待している。面接の練習の素材として利用したい。

- (5) 実際場面を見ることはとても役立つと思う。まだ見ていないが、個人の表情等の微妙な動き等も理解のために役立つと思う。
- (6) カウンセリング経験のない（余りない）学生・院生に対し、一通り理論を教えたあと利用したい。
- (7) 「あらまし」を見て対応プランを書かせ、討論してから相談事例と解説を視聴させる。
- (8) 教職志望の学生を対象として講義「生徒指導論」「カウンセリング」において、カウンセリング場面の紹介、カウンセラーの応答の具体例として利用したいと思う。多くの学生は「カウンセリング」という名称は知っているものの、そこで具体例に何が行われているのか良く知らないことが多い。そのためこのような教材を用いて紹介したい。

---

(研修担当者25名)

- (1) 教職員を対象とした学校教育相談研修の初級・中級受講者のカウンセリングの理解や実技トレーニング用の教材として、実技研修とともに活用することなどが考えられる
- (2) 講義の中で一部をとりあげて使うことが考えられる
- (3) 教職員対象の学校教育相談研修の初級・中級受講者へのカウンセリング理解など実技トレーニング用教材として、実技研修と併用するなどが考える
- (4) 初任者研修等初心者向けの講座で利用したい
- (5) 学校教育相談研修
- (6) カウンセリングを体験的に学ぶ講座などで視聴する。受講者のレベルとしては専門的な講座での利用が適当と思う。
- (7) 教育相談の研修を初めて受ける人にとっては、相談室での雰囲気の概要を知ることができる教材になると思われる。カウンセリングを実際に行っている人にとっても確認のための教材になりうるし、専門家のコメントもあってよい。
- (8) カウンセリング講座でのロールプレイング演習での1コマに入れる。(ただ、DVDプレーヤーが普及していないのでVTR教材でも十分かもしれないが。) 視聴後にディスカッションを行い研修を深める
- (9) 学校カウンセリング講座(初級・中級)で、面接場面の実際を理解してもらう形での利用
- (10) 初歩的レベルの教師に全体を通して提示することによってカウンセリングの全体像(雰囲気)の把握を助ける。心構え、場面設定も。経験者の職員に解説を伴って提示することによって、カウンセリングの技法、クライアントとの関わり等を深めるための助けとなる
- (11) カウンセリングの概要をとらえる意味で、初級レベルの受講者に利用できるとともに、1つ1つの技法をとりあげて使うという意味においては中級レベルの受講者にも利用できると考えられる
- (12) 基礎的なレベルから、実践・応用のレベルまで利用できるとと思われる。理論・演習等の中で効果的に利用できるとと思われる。
- (13) 相談面接演習の知識として導入的な場面で教材として活用できる。
- (14) ロールプレイについて。カウンセリングの技法(理論的な裏付け)。カウンセリングの流

れ（理論的な裏付け）。

- (15) 逐語記録で1つ1つチェック。研修を深めることで1語1語の大切さ、ポイントがよりはっきりする。
  - (16) スクールカウンセラー研修における実践講座、「面接の実際」などのコマ。受講者はすでに学校における教育相談を担当している教師で中堅が多い。
  - (17) 受講者のレベル：初級～中級 用途①：視聴した後グループワークで協議する用途②：ロールプレイの実習の前に視聴する。
  - (18) 初級・中級の受講者に対して講義・演習の資料として活用したい。
  - (19) 教育相談担当者研修会において、面接の仕方、事例提示の仕方等について理解を深めさせたい。
  - (20) ロールプレイによる実技研修をより効果的に実施できる。
  - (21) ロールプレイの実技研修を「教育相談・カウンセリング」に関する講座で活用できる。
  - (22) 教育相談担当者研修、生徒指導担当者研修で面接の仕方等を活用していく。
  - (23) 教育相談の長期研究生（初級、上級終了者）などの面談学習用に使えると思う。
  - (24) 教育に携わる教職員、カウンセラー、ケーススタディの一部として利用、自己のカウンセリング技法・理論などのクライアントに対する応用の幅を広げる。
  - (25) 初級者対象。他の面接を実際に見る機会が少ないため、ロールプレイの前段階に利用したい。逐語録で「言葉」、「質問」の重要性を、映像で非言語の重要性を認識するために利用したい。
-